

▼▼▼馬牧の目的▼▼▼

馬の数や生育状況を確認、また使役のために捕まえることを野馬執りといい、ほぼ1年に1回行われた。牧の端から馬を追い立てる役の人々(勢子)が周辺の村々から動員された。追い詰めた馬を牧士(牧の管理者)が誘導し、捕込という土手囲いの中に追い込んだ。三歳駒が選ばれ、幕府の厩舎で管理する馬の他は民間に払い下げられた。前回の野馬執り後に生まれた馬は焼印が押された。下野牧の捕込は現在の船橋市咲が丘1丁目にあった。

今も残る『野馬除土手』^{のまよけ}



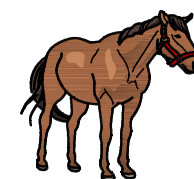
高根台第二小学校(敷地内)



二和小学校南側道路



こちら二枚の写真は流山市と柏市の境にある昔の面影を色濃く残す野馬土手です(参考)



錦絵 富士三十六景 下総小金原
初代広重 安政五年(1858)

* 現在の成田街道から見た習志野原あたりの風景

船橋市西図書館所蔵